

合 同

No. 509

「サーバントリーダー」

日本キリスト合同教会教師

岸本 茂雄



「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」（マルコによる福音書 10 章 43～44 節）。

聖書的基盤を持たない日本において、サーバントリーダーという概念は米国の経営学者が提唱した新たなリーダー像として、ビジネス社会に紹介されました。一見相反するような言葉であるサーバント（召使い）とリーダー（指導者）の合成語です。リーダーはメンバーにビジョンを共有し、一人ひとりの使命や責任を提示し、プランやプロセスを伝え、目標達成に注力します。従来の支配型リーダーは上から指揮命令し、先頭に立ってメンバーを引っ張りまわす。他方、サーバントリーダーはメンバーに仕える形で支援し、調整し、後押しする支援型リーダーなのです。

サーバントリーダーの典型はイエスさまです。ルカによる福音書 22 章、主の晩餐の席で弟子たちは自分たちの中で誰が最も偉いかという議論をしていました。イエスさまは彼らに、「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい」と諭しました。イエスさまの弟子なら、民の上に権力を振るう支配者のようではなく、民に仕える者として人々を導くサーバントリーダーでありなさい、ということです。

ヨハネによる福音書 13 章で、イエスさまは食事の席で弟子たちの足を洗いました。ご自身が率先して弟子たちに仕える姿勢を見せ、サーバントリーダーの模範を示したのです。そして、彼らに命じました。「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い

合わなければならない」と。

サーバントリーダーは本来聖書的で、教会から発生したものです。教会の兄弟姉妹がイエスさまに倣い、この世にあってキリストの愛を宣教し、隣人愛を实践する在り方の一つなのです。

ところが、日本では聖書抜きで形だけがビジネスの現場に伝わり、一部の職場で活用されています。わたしは長くビジネスマンとして働き、自分の役割においてサーバントリーダーを実践してきました。更に、取締役就任時のスピーチで冒頭のマルコ 10 章の御言葉を引用し、社員に仕える経営を宣言しました。上から命令するリーダーは偉そうですが、現場で部下を下支えするサーバントリーダーはより信頼され、メンバーの結束は強くなり、業績は向上するのです。

実際、職場でサーバントリーダーの多くはクリスチャンではありません。彼らがイエスさまの福音を知り、キリストの愛に根差した真のサーバントリーダーになるようにと祈っています。

教会には老若男女が集います。様々な職業の方も無職の方もいます。学生や幼児も、健常者も病弱者もいて、生活パターンは千差万別です。一見して何の共通性も統率性もないようですが、同じ福音にあずかり、イエスさまを主と告白し、神の国を目指すことで一致しています。イエスさまは教会の頭であり、その体なる教会を守り、わたしたちを導いてくださいます。上から指示するのではなく、わたしたちの目線で現実の困難な問題と一緒に取り組み、御言葉によって解決を示してくださるのです。教会のサーバントリーダーなのです。

わたしたちクリスチャンはイエスさまに倣い、聖霊の助けによって、この世でサーバントリーダーになることが期待されています。わたしたちがそれぞれ関わる様々なコミュニティで、家庭や職場や学校や近隣などで、仕事や学びや交わりの機会を通し、人々に謙遜に仕え、思いやりと祈りをもって福音を伝え、イエスさまを証しするのです。もちろん、自身の弱さや失敗もあるでしょうし、周囲からの反対や批判もあるでしょう。しかし主は、主に信頼して忠実に従い、チャレンジする生き方を大いに祝福してくださいます。主は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と励まし慰めてくださっているのです。